

第1章 地方拠点都市地域の整備の基本理念

「東毛地方拠点都市地域」は、鉄道及び高速道路網の交通体系を利用し1～2時間程度で東京と結ばれる首都圏の60～110km圏の群馬県南東部に位置している。

中央には渡良瀬川が、また南部には利根川が流れ、日光・足尾山系から延びる山岳丘陵地と南に広がる平野部が織りなす、緑と水が豊かで多様な自然環境に恵まれている。このため、古代から人びとが生活を営み、文化が栄え、古代には東山道、近世には日光例幣使街道・銅^{あかがね}街道等の交通の要衝として栄えてきた。

本地域は、桐生市・太田市・館林市の3市を中心とした9市町で構成され、北関東有数の工業地域として群馬県発展の牽引役を果たしてきた。域内には東北縦貫自動車道や北関東自動車道が整備されており、北関東地域のみならず東北・上信越地域を含む広域的な中核的拠点都市地域としてその役割が注目されている。

今後、本地域においては、東京圏への近接性や高速交通体系の整備の進展、相当規模の開発可能地の存在などの潜在的な高い活力を活かし、

- ① 北関東地域における中核都市圏として
- ② 東京圏から分散する諸機能の導入の受け皿として
- ③ 国土レベルの交流拠点となる都市圏として

整備を推進していくものとする。

さらに、県境を超えた両毛広域都市圏として隣接する足利市・佐野市との機能の連携・分担を図りつつ、「職」「住」「遊」「学」の調和した自立性の高い都市圏の形成を目指すものである。

第2章 地方拠点都市地域の概要

1. 地方拠点都市地域の名称

東毛地方拠点都市地域

2. 中心都市名

桐生市、太田市、館林市

3. 地方拠点都市地域の構成

「東毛地方拠点都市地域」は、群馬県南東部に位置し、桐生市、太田市、館林市、みどり市、板倉町、明和町、千代田町、大泉町、邑楽町の4市5町で構成される。

(単位：k㎡, 人, %)

市町名(旧市町村名)		面積(旧面積)		国勢調査人口			人口増加率	
				平成7年	平成12年	平成17年	7～12	12～17
地域計		852.59		576,699	582,874	580,554	1.1	△0.4
桐生市	(桐生市)	274.57	137.47	120,377	115,434	109,127	△4.1	△5.5
	(新里村)		35.60	14,956	16,111	16,324	7.7	1.3
	(黒保根村)		101.50	2,860	2,753	2,586	△3.7	△6.1
太田市	(太田市)	176.49	97.96	143,057	147,906	150,326	3.4	1.6
	(尾島町)		19.34	14,440	14,263	14,067	△1.2	△1.4
	(新田町)		38.22	28,814	29,606	29,651	2.7	0.2
	(藪塚本町)		20.97	17,288	18,247	19,255	5.5	5.5
館林市		60.98		76,857	79,371	79,454	3.3	0.1
みどり市	(勢:東村)	208.23	141.57	3,657	3,275	2,948	△10.4	△10.0
	(笠懸町)		18.61	24,092	25,799	27,740	7.1	7.5
	(大間々町)		48.05	23,234	22,192	21,427	△4.5	△3.4
板倉町		41.84		15,533	15,946	15,865	2.6	△0.5
明和町		19.67		11,255	11,474	11,326	2.0	△1.3
千代田町		21.76		11,758	11,602	11,620	△1.3	0.2
大泉町		17.93		41,100	41,403	41,466	0.7	0.2
邑楽町		31.12		27,421	27,512	27,372	0.3	△0.5

図-1 位置図

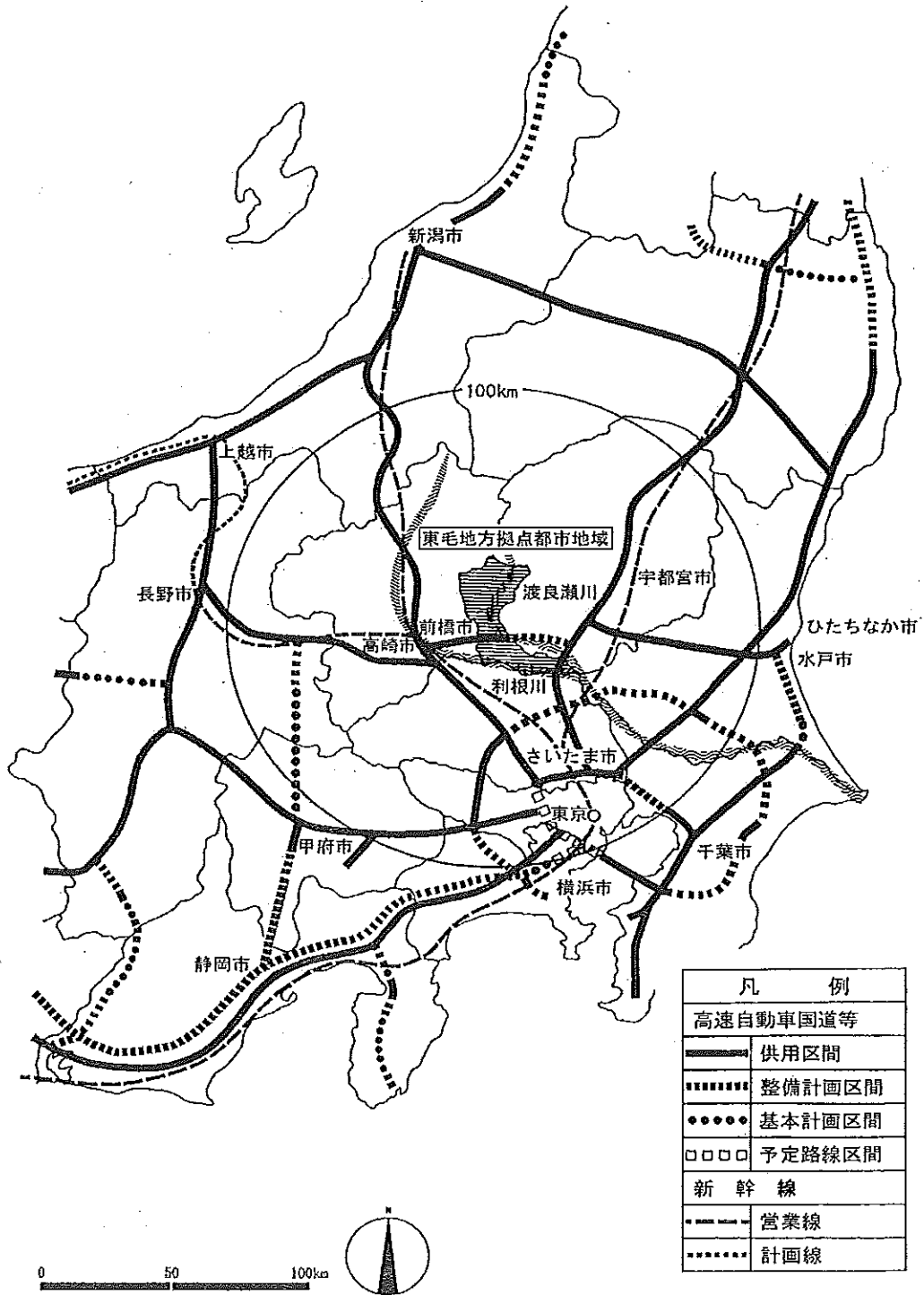


図-2 圏域図

